

# 感染症対策委員会の活動

委員長 山下美和子

感染症対策委員会は2009年（平成21年）4月、法人内の各部署から委員を選出し発足しました。法人全体の感染症マニュアルを作成し、日常的な感染症対策の啓発や情報共有、対応等を共通認識できるように取り組んできました。

これまでは、季節性インフルエンザやO157、ノロウイルス等々の感染症対策を中心に進めてきましたが、2020年1月、突如として現れた「新型コロナウイルス感染症」。2020年4月に初めての緊急事態宣言が発令され、次々と発せられる行政からの注意喚起、メディアからは猛威を振るう感染拡大の報道、そしてSNS等々、情報ばかりが氾濫し翻弄されながらも、マスクやアルコールすら手に入らない中で、自分たちが出来得る数少ない対策を必死で考えていたことを思い出します。

当法人内でも2021年に入ってから散発的に職員、利用者により各1名の新型コロナウイルスへの感染がありました。幸いなことに法人内の二次感染は発生せず集団感染を免れました。2021年7月、行政よりワクチンの優先接種の連絡をいただき、協力医の大西先生のご協力のもと、入所利用者と職員が2回のワクチン接種を無事終えることができました。そして11月に入って第5波の感染拡大が下火となり、世間ではウィズ

コロナとはいえ、ようやく日常を取り戻しつつあるようですが、施設の利用者の多くは、様々な既往症や疾病を抱えており、集団生活という環境下でもあまりにも感染リスクが高いため、今も警戒態勢のままの非日常生活を続けてもらっています。

この冬は季節性インフルエンザの流行の可能性や、また新型コロナウイルスも第6波が来るであろうと報道される中で、気を緩めることなく出来得るすべてのことを準備していくことが感染症対策委員会の役割だと考えています。そのためにも早急にこれまでの検証を行い、結果を情報共有し、今後の対策を準備しておくことが重要な課題と捉えています。

まずは「ウイルスを持ち込まない！感染拡大させない！」ための日常の感染症対策について現在継続していることをお話ししたいと思います。

## (1) 毎日の健康管理

毎朝の検温は全利用者、職員に依頼し継続しています。同居家族も含めて、発熱や風邪症状がある場合はまず電話にて連絡し相談することをお願いしています。

現在は新型コロナウイルスに感染していても無症状の場合も多いので判断に苦慮しますが、ただ「いつもと体調が

違う・・・」ということに、気づくこと、そして経過を注視していくことが大切だと感じています。

## (2) 手洗い、消毒、換気の徹底とマスク、フェイスシールドの着用

手洗い、消毒は感染症対策に最も大切で有効だと実感しています。実際、昨年度は新型コロナウイルス対策で例年以上に手洗い、消毒の徹底をした結果、季節性インフルエンザ発症者がゼロでした。ウイルスは人の手を介して感染することが多いと言われる。こまめな消毒が出来るように、安全面に配慮しながら必要な場所に消毒液を設置しています。また職員は各自で携帯ボトルを所持し、共用部分の手が触れる場所の消毒を随時行い、こまめな換気や掃除の徹底も継続しています。

マスク着用については、利用者さんの中では正直徹底出来ていません。感染症予防を考えると着用すべきなのは当然なのですが、「着用する意味を理解できない」「感覚過敏」など、障がい特性から困難な人もたくさんいます。それでも外出時は世間から着用を求められます。マスク着用を練習し始めて1年半、まさに感化されながら繰り返しの練習、肌触りのよい布マスクやハンカチを活用することで、外出時や通院

時のマスク着用ができるようになった利用者さんもいます。

## (3) ゾーニング

今年度、就業支援部は新しい建物で完成し、現在は各部署で建物別になりました。そのため就業支援部と生活支援部のエリア分けは必要なくなりましたが、お互いの職員の接触を可能な限り防ぐために、必要なのはPHSによる内線通話を活用して情報共有しています。



になった今も、今後に向けてこの違和感のある風景を継続しています。

## (4) その他

食事風景は新型コロナウイルスの出現以来一変しました。皆さん同じ方向を向いて間隔をあけ、時間差で人数制限をした上で黙食です。配膳や食事介助、全て使い捨て手袋を着用し感染症対策を行っています。



職員と利用者が一緒に食事をし、楽しい会話が飛び交うあの光景は、今は見ることはできません。食を楽しむにしている人が多い中、本当に心苦しいですが、施設という集団生活の中では今は必要なことと我慢してもらっています。

入所利用者については、緊急事態宣言発令中は外出、帰省も中止となり、外部との接点が閉ざされた生活が続きました。現在は段階的に少しずつ緩和してはいますが、以前に比べるとまだまだ制限の多い暮らしが続いています。

感染症対策は何かひとつの方策に頼るのではなく、様々な方策を重ねるリスクを軽減することが重要だと言われています。第5波が下火になったのもワクチン接種の浸透だけではなく、様々な感染症拡大防止対策が重なった結果だと思われまます。

法人の中でも、特に入所利用の現場では、知的な障がいのある人が、様々な既往症や疾病を抱えながら、集団生活をすると高リスクな環境下で暮らしています。

私たち感染症対策委員会では、今後も油断することなく、新型コロナウイルスはもろろんのこと、様々な感染症予防のため、利用者特性、生活環境、職員スキル等も考慮しながら、可能な限りの対策を多角的に検討し、啓発、実践を続けていきたいと考えています。

# 就職おめでとう



▲就職お祝い会 (2021年11月10日開催)

就職お祝い会 (2021年10月30日開催) ▶

新年明けましておめでとうございます。平素は加古川はぐるま福祉会の活動にご支援ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

一昨年より、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、社会生活や経済活動に大きな影響がありました。ニューズ等でも失業者の増加、求人数の落ち込みなど厳しい状況が報道されていますが、加古川はぐるまの家では、感染症対策を行いながら就職を目指して訓練を継続してきました。

この度、令和2年3月から令和3年3月にかけて9名の方が就職しました。例年通りの就職激励会はできませんでしたが、ささやかながら就職者のお祝い会を開催しました。お祝い会ではそれぞれにQ&A形式で質問をしながら、仕事の状況やこれからの目標を尋ね、皆で共有し、長く働き続けられるように頑張っていく強い思いを感じることができました。そんな思いに協力できるように今後も定着支援を行い、良い働きが続けられるようにサポートしていきたいと思ひます。

次頁に、お祝い会の写真やQ&Aの回答を載せておりますので、就職者の方達の思いや気持ちを感じてもらえればと思ひます。(就業支援部 山中佳祐)